

会議名 第47回ニセコ町観光戦略会議

開催日	平成26年11月25日	会議時間	開会 PM 6:30 閉会 PM 9:00
会議場所	ニセコ町役場 第二会議室	記録者	商工観光課観光戦略推進係 係長 齊藤 徹
出席者	委員：渡辺委員、松岡委員、吉村委員、 事務局：齊藤観光戦略推進係長、淵野観光圏推進係長 魅力アップ提案者：商工会 観光飲食部会 部会長 清氏、副部会長 高井氏		
欠席者	委員：大久保委員、今野委員、片岡委員、小関委員、服部委員、宮崎委員、チャーチル委員、木下委員、櫻井委員		

【主な内容】

◇観光魅力アップ事業の提案について

①飲食店空状況カレンダー

提案者 商工会 観光飲食部会 部会長 清氏、副部会長 高井氏

(資料は別紙のとおり)

※12/10から稼働したい

《主な意見》

- ・更新のタイミングについては？
→最終的にはリフトの運行状況並みの情報を提供できれば
- ・加盟は何店舗ほど見込めるか
→10店舗以上はある。ホテルの飲食店なども含めたい。
- ・飲食店の負担はあるのか
→加盟料のようなものが1,000円もらえれば維持管理は可能かと考える。
- ・更新しない、参加しないところは
→更新したところが上に来る様な設定にしてあるので、更新意欲は増すと思われる。
また、掲載していないところや常に満席のところには電話する必要がなくなるでも効果がある。
- ・英語表記も視野に
- ・1/5は自腹になるのか
→加盟料などで工面可能。次年度以降の維持管理も加盟料で可能。
- ・将来的には綺羅乃湯のホールを情報センターのように、リアルタイムでモニターに飲食店情報などを発信できれば
- ・夏もやって欲しい
- ・送迎の可否やタクシーの情報も欲しい
→将来的にタクシーやデマンドの空き状況も入れれば
- ・不定休のところは紹介しにくい
- ・スキー場のライブカメラのようなリアルタイムな情報は必要。
- ・お客様目線で必要なツールである。

※今回は、トライアルとしてしっかりしたものをもう少しお金をかけて、画面構成や周知方法など、予算も含め再検討し、資料を再提出。

②冬のニセコ観光コンテンツ形成事業

～ニセコ駅イルミネーションカウントダウン2014～

提案者 ニセコ駅イルミネーションカウントダウン2014実行委員会

(資料は別紙のとおり)

※12/13(土)に点灯式イベント

《主な意見》

- ・ボタンで点灯するのは、全てなのか？
→もともとのイルミネーションは点灯したままで、ボタンでは何かしらの動きや音(例えば煙突にサンタが登っているような動き)などのプラスアルファと考えている。
- ・これを目当てに観光客がニセコに来てもらうというのは難しい
- ・テレビなどが呼べれば話題になる。
- ・地域の人がだいぶ関わっているのに、地域の人がこんなに手をかけて愛されている駅なんだよということで発信するのなら。
- ・去年のイベントでは、どちらかというと地元向けになっていた。
- ・冬は道の駅ではなく、ニセコ駅なんだよという発信。
- ・冬の食といえば鍋なので、ニセコ鍋という名物ができれば旧湯めぐりバス路線などの呼び込む材料になりうる。
- ・冬は宿泊客も多いので、呼び込めれば。

※イルミネーションについては、コンテンツとしては必要なものであり、過去にも提案された経緯もある。今回の提案内容では「観光客」という戦略的な視点が足りないため、そこを取り入れ、事業予算を再精査した提案書を再度提出してもらう。

※※今回は、委員の出席者も少なく実施までの時間が無いため、2件とも再提出資料を基に、事務局において魅力アップ事業の該当とすべきか、再審査することとする。

《戦略会議の提案事業、検討事項について》

(吉村委員提案)

キッズキャンプのようなイベントを考えている。親子で参加して有名なコーチと一緒に滑ってスキーの楽しさを広げて行けるような。

→子供には遊びながらも最後は競争させて金メダルを取る喜び

→地元の人たちもかなりスキーが上手なので、どんどん活用し、スキーに関わっている人はその楽しさを広めていくべき。

→スキーを売りにしている町として、観光戦略としてもっとスキーを浸透させていくべき。

※次回までに具体的な企画書を提出。

(渡辺委員提案)

有島記念館の伊藤学芸員との意見交換から。

地元アーティストに脚光をあてたい。記念館を利用してニセコの全アーティスト展覧会などを実施したい。そこからきっかけに購入者が増えたり、記念館がアートの拠点になれば。

※実現に向けて記念館と調整。

◇次回日程(予定)

12月、1月は繁忙期のため、2月上旬で後日再調整